



学校だより

《学校教育目標》 自ら学び 人とかかわり 創り出す子

令和2年5月8日

横浜市立東戸塚小学校

「やってみよう！」を引き出すために

校長 南部 礼子

新緑が眩しい季節になりました。先日、ある教育誌の表紙の「幸せ」という文字が目飛び込んできました。緊急事態宣言の発令に伴って、臨時休業期間が延長されたこの1か月間、子どもも大人も、それぞれの環境に向き合って生活や仕事をしています。外出自粛は我慢を要しますし、さらに学校の臨時休業が延長され先が見えない状況に不安を感じることも多いです。このようなときだからこそ、「幸せ」という言葉に敏感に反応したのかもしれませんが。

「幸せ」に関する教授へのインタビュー記事に、心理学に立脚する調査・分析から導き出された、次のような因子が示されていました。「やってみよう！」因子（自己実現と成長の因子）、「ありがとう！」因子（つながりと感謝の因子）、「なんとかなる！」

（前向きと楽観の因子）、「ありのままに！」因子（独立と自分らしさの因子）です。さらに、何が幸せかという定義は各人にゆだね、その人が「自分は幸せだ」と思えば「幸せ」と見なしているということです。自分の強みを知っていて、人生にやりがいを感じていて、多様なつながりをもっている人が自分を「幸せ」と感じている傾向があるそうです。また、「やってみよう！」という夢中になれる活動をすることが大切であると述べられていました。そのような「幸せ」な人は創造性や生産性が高いという調査結果もあるそうです。

毎年、体育館前のプランターに花の苗を植えています。年度末から次年度初めにかけては、卒業や入学を迎える子どもたちへのお祝いの気持ちを表す一つとして、在校生がパンジーを植えています。そして、夏を迎えるころ、プランターにはポーチュラカが植え替えられます。シャモジ形で多肉質の葉と茎をもち、赤、黄、ピンク、オレンジなど、色とりどりの花を咲かせます。日光を好んで朝開花し、夕方になると閉じて、まるでしおれたかのようになります。曇りの日も花を咲かせません。蕾が確認できないほど茎ばかりが目について、そのまま枯れてしまうのではないかと思います。ところが、翌朝、日光が当たると、とたんにプランターいっぱい花を咲かせます。ポーチュラカ



について調べてみると暑さや乾燥に非常に強い植物だということが分かりました。この3年間、毎年ポーチュラカの開花の季節に、日光が当たると花を開き、日光が当たらない時は根気よく日光を待ち続ける姿を繰り返し見えています。この植物が周りの環境を受け入れる柔軟さと強さに感心します。夏の強い日差しにも負けずに成長するポーチュラカの花言葉は「いつも元気」だそうで、その通りとうなずけます。ポーチュラカは、暑さには強いですが、耐寒性はというと弱いようです。逆に寒さに強い黄色のパンジーの花言葉は、「つつましい幸せ」だそうです。植物の多様性に感じ入りました。

子どもが主体的に考えて創造性を発揮しながら学習を進めていくこと、また、多様な見方や考え方に合って自分の見方や考え方を広げることによって、深い学びの実現に結び付くと考えます。そして、そのような学びが自己実現や成長につながるのではないかと思います。今、このような状況だからこそ、子どもの発想の多様性を認め、子どもが自ら学ぶ力を身に付けることに努めたいです。子どもの「やってみよう！」を引き出すために。